

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒130 東京都新宿区
愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者
渡辺 孝一

〒郵便振替口座中
00150-4-15754
中銀行口座中
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

八月に国際フォーラム開催！ 骨髄バンクの国際化に向けて

全国協議会は、アメリカ・韓国・台湾で運動を展開している方を招き、東京で国際フォーラムを来る八月十八日に開催し、骨髄バンクの国際化への方向性を話し合うことになりました。

日本骨髄バンクに登録する患者は、最終的に移植に至れるかどうかは別にして、約八割にドナー候補者が、現在は出現していません。しかし残る二割には日本国内でのドナーは全く見つからない状況です。日本人にはま

れなHLA型も海外では容易にドナーを得られる可能性があり、骨髄バンクの国際ネットワークは患者救済の目的から、避けては通れない課題です。

なお、この催しは四カ国語の同時通訳によって一般の参加者にも開放して行われます。

日時・一九九六年八月十八日(日)午後
会場・東京国際展示場(東京ビッグサイト) 会議棟六階

ドナーは日本の七〇倍規模 報告台湾骨髄バンク事業—遠藤 允

五月上旬に全国協議会から派遣されて台湾の骨髄バンク取材してきた。九三年十月に発足した台湾では、ドナー登録者の伸びのすさまじさに驚く。二年半を経たこの五月で十二万人近いのだ。全人口が日本の六分の一の二千万人だから、日本に換算すれば七十万人に匹敵する

ドナーを集めたことになる。●仏教慈善会と証厳法師
その秘密は「慈済功德会」という仏教団体にある。本部は台北から国内便で三十分ほどの花蓮だが、証厳法師(尼僧)が布教を始めて今年でちょうど三十年になる。国民の五分の一に当たる四百万人が会員(信者だけ

でなく、一度でも寄付をした人も含まれているため、李登輝總統もその一人)となっており、法師の方針によって十年前に九百床の病院を建設したあと、医科大学、看護学校をつくって運営している。宗教団体というより慈善・奉仕団体と考えたほうが理解は早いかもしれない。

●香港シンガポールと提携
骨髄バンクはこの慈済功德会が設立したもので、事務局は慈済総合病院内にある。患者登録は千二百人(うち海外八百人)で、既に三十一人(海外六人)の患者さんにドナーを紹介しており、日本からの患者登録も複数あつて、順調に進めば女性患者が間もなく移植に漕ぎ着ける運びだ。香港、シンガポールの骨髄バンクとも相互検索を進めており、韓国の骨髄バンクと同様に、今後は全米骨髄バンクよりも身近な存在になるだろう。

●HLA検査はアメリカで
ドナー登録者が急増した背景には、慈済会が中心となつての集中イベントがある。一回のイベントで数千人もの登録者が集まるのだ。その際のHLA検査は一括してアメリカで実施される。日本では十万人(DRRデータ)のドナーがいれば九割の患者さんにドナーが見いだされたと試算されているが、同じ基準で言えば台湾は「七割」だ



〈マサコマサオさんのファンへ〉
マサコさんは先日骨髄移植を終え無事に退院しました。(編集部)

心からのご寄付を
ありがとうございました

4月21日～5月20日まで

東京江東ライオンズクラブ	現金	1,000,000
清水秀樹	切手	450
カタギリカタシ	現金	1,000
姫路地区骨髄バンク推進センター	現金	10,000
山崎久江	現金	5,000
阿原一良	現金	10,000
㈱東洋化学研究所	切手	1,620
稲次康三	現金	1,000
匿名	現金	7,151
小畑洋一	現金	30,000
菊地清香	切手	4,050

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会

第50回 運営委員会報告

五月十九日於全国協議会事務局
主な報告・協議事項は次のとおりです。

- ◆報告事項
◆協議会ニュース縮刷版(別掲)
- ◆あやちゃんの贈り物展パート2の進行状況について
- ◆第7回全国協議会総会資料について



台湾骨髄バンク事務局

新しい仲間—釧路—
釧路骨髄バンク推進協会
理事長 川井 隆俊



◆ボランティア苦小牧大会について
◆活動マニュアル「希望のかけはし」改訂版について
◆東京国際フォーラム
◆患者相談窓口の設置について
◆財団の土・日電話受け付け継続の要望書について
◆普及広報委員の白紙撤回に関する質問書について
◆その他

縮刷版・刊行!
～ご利用下さい～

この度、全国骨髄バンク推進連絡協議会の仲間入りをさせていただくことになりました。よろしくお願いたします。

一昨年までは、道東においてこの「骨髄バンク」の運動はほとんど行われておりませんでした。しかし、昨年、当地の青年

骨髄バンクNOW

★ビデオ「いのちのボランティア」放映
郵政省のご好意により、平成8年5月～平成9年3月まで、月1回・第4金曜日の12時から全国約1400カ所のP-SAT(Post Office Satellite Communication Network)設置の郵便局で、テレビ放映されることが決定。

★コーディネーター養成研修会を実施
今回はコーディネーターの不足している地区に限定し、研修者約60名を募集の予定。実施要項・受講申請紙はハガキにて、請求して下さい。

検査済ドナー登録者	72,000人
患者登録者	3,996人
移植件数	739件

(4月末現在)

★骨髄バンクへのお問い合わせは★
フリーダイヤル0120-377-465

◆会長・副会長の動き◆

海部会長
4月16日 一宮中ライオンズクラブ35周年記念式典参加(副会長と同行。寄付50万円)
18日 ライオンズ国際協力会330-A地区4R2Z5クラブ合同例会参加(陽田運営委員長、野村副運営委員長が同行。寄付100万円)

大谷副会長の講演活動
4月6日 福島県郡山市 : 財団法人大田総合病院
20日 愛知県西尾市 : 真宗大谷派 岡崎教区第11組
22日 東京都練馬区 : 健康フォーラム21
5月9日 岩手県盛岡市
11日 愛知県小牧市 : 小牧市社会福祉協議会
14日 東京都渋谷区 : 渋谷中央ライオンズクラブ
18日 愛知県名古屋市 : 愛知県社会福祉協議会
19日 東京都江戸川区 : 七田チャイルドアカデミー小岩教室

全国協議会
ニュース
縮刷版(1)

の要望に添えて発行に至りました。地区普及広報委員をはじめ、有効な活用を期待したいと思います。

体裁はA4判の縮刷で、目次・索引も備えています。

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せ下さい。

岩手

金井いづみさん 応援コンサート

去る五月六日、金井いづみさんを応援するためのチャリティコンサートが、一関パッパ研究会(代表 鈴木美樹子)主催で開催されました。



金井いづみ・ニコラ フリサルディ夫妻(サルツブルク在住)は一九八七年一月以来、一関市のたくさんの子供たちや学生にピアノの指導を通じ、また「ニコラ杯わんこそば大会」などで市民との交流をしてきており、百万人署名運動に際しては、一関市民四百名以上の署名を集め金井さんを勇気づけてきました。金井さんは昨年インスブルックにて自家骨髄移植を受けられ、

開病をつづけられていましたが、昨年より日本で治療に入られ骨髄移植も準備中です。

当日はさくらが満開で、出演者のみなさんと友情出演の植田克己さんのすばらしいコンサートになりました。金井いづみさんの移植が成功し元気になられたら一関でのリサイクルをお約束していらつしやるそうです。

骨髄バンクのパンフレットや協議会ニュースを入場者にお配りしていただきました。

パッパ研究会のみなさんはこの十年間、ニコラ&いづみ夫妻の友情に感謝し、いづみさんと同じ様に闘っている白血病の人たちに少しでも役立つことを願って、コンサートを企画したそうです。収益金は金井さんを通じて財団に寄付されることとです。(小野寺)

高知

きせひろゆき絵画展 三、七、四二名入場

沖繩の喜瀬浩之君は、白血病のために五歳九カ月で短い人生を終えましたが、この度ご両親

宮城

フリーマーケット出店で バンクPR

宮城では、これまで石巻、古川に各支部を置いて活動を展開してきました。しかし、肝腎の仙台市に支部がなく、同地域内で組織を整えることが課題となっていました。

アの間で仙台でも独自の活動をしていこうという雰囲気にならなくなりました。その手始めに、東日本放送が主催しているフリーマーケット(要するに青空市)に出店して、骨髄バンクをPRしようという企画が持ち上がりました。

ボランティアがそれぞれに廻って集めたバザー用品は、日用雑貨を中心に五百点以上にもなり、五月四日の当日は、本当に売れるのかと心配していた気持ちも、朝早くから詰め掛けた買い物客が簡単に吹き飛ばしてしまいました(売り場騒然、うれしい悲鳴連発!)。終わってみればおよそ十一万円の売り上げで、参加した二十五名のボランティアもみんな驚いていました。

今回の企画の目的は、資金調達もさる事ながら、ボランティアの結束を深め自主的活動を展開していくための第一歩とすることでしたので、その意味では大成功であったと思います。今後は、新たなイベントの企画も含め、より多くの方々に骨髄バンクを理解していただきたいと思っております。もちろん、初心を忘れずに。(四方田)

会場内に募金箱をひっそりと置いてありましたが、二、三、七、四九円の尊いお金が入っていました。これは九州骨髄バンク推進連絡会沖繩支部に贈呈いたします。(下司)

池袋駅を皮切りに昨年十月にスタートした「山手線一周キャンペーン」今年四月の原宿駅で

東京・友の会

山手線一周キャンペーン ただ今実施中!

神奈川

ポスターコンクール 結果発表

五月十一日(土)、神奈川県民センターホールにて、神奈川骨髄バンクシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムでは、骨髄バンク登録推進ポスターコンクール表彰式もあわせて行われ、六十点の応募作品の中から、最優秀賞一名、優秀賞三名、佳作六名の計十名が選ばれ、表彰されました。

最優秀賞を受賞した生駒裕子さんの作品は、色遣いや人物の表情がやさしく、見ている者をホッとさせるとても温かい作品でした。

生駒さんは、この作品に「誰もがもっているやさしさを、一人一人に生かしてもらいたい、そして、そのやさしさの輪を広げることができれば」という願いをこめて描いたと語ってくれました。

この言葉どおり、多くの人々の理解、協力を得て、骨髄バンクをとりまく輪がますます大きくなり、ドナー登録十万人へとつながることを願いたいと思います。(山後)

「月日は百代の過客にして、いきかう年も又旅人なり……」で始まる松尾芭蕉の奥の細道。江戸深川の芭蕉庵を出発し、日光街道をへて平泉中尊寺、新潟県出雲崎、敦賀を経て大垣までの二千四百km、七カ月にわたる俳諧紀行はこの長旅を大垣で結んでいる。

岐阜

奥の細道 自転車走破

関西

自衛隊でマラソンの 深尾さん講演

九六年四月二十六日午後、海上自衛隊舞鶴地方総監部の第四術科学校で、マラソンランナー深尾真美さんを招き、講演会。

ドナーである経験を「煌めくいのち」のタイトルで話され、その誠実なお話ぶりに感動しました。特に「形の上では私が上げたことになるが、むしろ頂いたものの方が多かった」という感想は印象的。お話の中にはマラソンの話もあり、講演後トレーニングの仕方について質問する女性隊員の姿もあり、今後「マラソン教室」併設も面白いかも知れません。

自衛隊舞鶴総監部に属する隊員の数は教育隊、艦艇を含めると三千余人。舞鶴でも過去五年間に五人の隊員が白血病に罹り、三名が亡くなっているとのこと。献血にも協力的で、既に登録している隊員も多いようです。今回の講演会は総監をはじめとする皆様のご理解、第四術科学校長、管理部長のご協力、特に一昨年の舞鶴衛生隊内での「主務者講習会」以来の黒木年光隊長のご尽力によるところが大きく感謝しています。(森下)

しかし、骨髄バンクボランティアも市長面談が行えたり、町長から普及啓発への約束がされるほか、東日本の各地では大きく報じられるなどの成果を納めました。

今回の勉強会は、外部からお二人の先生をお招きして、白血病と骨髄移植に関する素朴な疑問から将来的展望、そして私たちがとって一番大切な問題である患者本人やその家族が、病気のものや、付随して起こる様々な問題を、克服していくための心構え、姿勢等について、貴重なお話をいただきました。参加された患者家族、あるいは患者さんご本人からも、積極的に、質問やご意見が出され、大変実りある会でありました。お二人の先生方のお話や、急

速に進歩する医療の現状を考えれば、白血病や再生不良性貧血、あるいは骨髄腫、リンパ腫等の疾患も、決して克服できない病気ではない状況にあると言えます。私たちが正面から向きあって、患者にとつて、そしてその家族にとつて最良の結果が得られる様に……と情報交換や勉強をかさねています。

しかしながら、その道程は、決して平坦ではありません。治療薬の投与にともなう副作用との戦い、移植を望みながらドナーの見つからない苛立ち、病院と家庭との二重生活や高額な医療費による経済的負担の問題等、色々な問題が山積しています。

九州

春の勉強会

九州の勉強会は、外部からお二人の先生をお招きして、白血病と骨髄移植に関する素朴な疑問から将来的展望、そして私たちがとって一番大切な問題である患者本人やその家族が、病気のものや、付随して起こる様々な問題を、克服していくための心構え、姿勢等について、貴重なお話をいただきました。参加された患者家族、あるいは患者さんご本人からも、積極的に、質問やご意見が出され、大変実りある会でありました。お二人の先生方のお話や、急

フジテレビを 見て見ぬふりは やめましょう。

フジテレビ

集 いっしょうけんめい ぼくががんばる

え・きせひろゆき
ここに描かれているのは、白血病と闘った男の子の、わずか三歳で、急性リンパ性白血病と診断され、闘病中に描き続けた絵は五〇〇枚余り。その中から百二十枚を選び、一冊の冊子として私達に天国からメッセージを投げかける。A4変型/96ページ/カラー/定価二、五〇〇円

那覇出版社
〒901-11
沖縄県那覇市南風原町字兼城515-5
電話 098 (888) 2151

萌文社

戸澤富雄著 四六判上製 定価一七〇〇円(税別)

大介・二十二歳の軌跡

「がん」と闘った青春

北海道で息子の命を救うため骨髄バンク運動に奔走する父親。国立がんセンターでのがん告知。骨髄移植、社会復帰、再発。励ます家族、友人、医療スタッフの心温まる物語が展開する。

〒102 千代田区富士見1-5-12
TEL03-3221-9008 FAX3221-1038

限りある時間を懸命に生きぬいた青年の姿を克明に綴るドキュメント

速に進歩する医療の現状を考えれば、白血病や再生不良性貧血、あるいは骨髄腫、リンパ腫等の疾患も、決して克服できない病気ではない状況にあると言えます。私たちが正面から向きあって、患者にとつて、そしてその家族にとつて最良の結果が得られる様に……と情報交換や勉強をかさねています。

私たちが正面から向きあって、患者にとつて、そしてその家族にとつて最良の結果が得られる様に……と情報交換や勉強をかさねています。